

聖書日課 『からし種』 2024.7.21－7.28

<p>7月21日 (日) イザヤ 44章</p>	<p>「わたしは乾いている地に水を注ぎ／乾いた土地に流れを与える。あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ／あなたの末にわたしの祝福を与える。わたしはあなたの背きを雲のように／罪を霧のように吹き払った。わたしに立ち帰れ、わたしはあなたを贖った」(3・22節)。主はわたしたちの罪を赦し、役に立たない偶像ではなく、御子イエスを遣わしてくださった。</p>
<p>22日 (月) イザヤ 45章</p>	<p>「地の果てのすべてのひとびとよ／わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない」(22節)。2800年前、イザヤを通して神は、既に、地の果てに住むひとびとをも招いてくださっていた。さらに、御子イエスを地上に遣わしてくださった。しかし、わたしたちは御子を十字架に送ってしまった。わたしたちは御子の示された愛を理解できているだろうか。</p>
<p>23日 (火) イザヤ 46章</p>	<p>「同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」(4節)。わたしたちを造ってくださった主は、白髪の老人になっても、わたしたちを担い続けると約束してくださっている。にもかかわらず、なおわたしたちは罪から離れることができず、不条理が世界中に広がる。</p>
<p>24日 (水) イザヤ 47章</p>	<p>「わたしは自分の民に対して怒り／わたしの嗣業の民を汚し、お前の手に渡した。お前は彼らに憐れみをかけず／老人にも軛を負わせ、甚だしく重くした」(6節)。懲らしめのため、自らイスラエルをバビロンに渡されたのは主御自身だった。しかし、そのバビロンに主は滅亡の宣告をされた。バビロンの驕りのために。主に招かれたわたしたちは謙遜に従いたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.7.21-7.28

<p>25日 (木)</p> <p>イザヤ 48章</p>	<p>「わたし自身のために、わたし自身のために／わたしは事を起こす。わたしの栄光が汚されてよいであろうか。わたしはそれをほかの者には与えない」(11節)。罪を重ね続けてきたイスラエル。本来ならば、既に滅ぼされてしまっているけれども仕方のない民。しかし、主は「怒りを抑え」滅ぼさないようにしてくださった(9節)。主の栄光のためにイスラエルは贖われている。</p>
<p>26日 (金)</p> <p>イザヤ 49章</p>	<p>「捕らわれ人には、出でよと／闇に住む者には身を現わせ、と命じる。彼らは家畜を飼いつつ道を行き／荒れ地はすべて牧草地となる」(9節)。バビロンからの帰還の時を主は告げておられるのだろうか。むしろ、最後の時、虐げられた人々、小さくされた人々に向けて、主が呼びかけてくださる言葉ではないだろうか。荒れ地がすべて豊かな牧草地となる希望のとき。</p>
<p>27日 (土)</p> <p>イザヤ 50章</p>	<p>「お前たちのうちにいるであろうか／主を畏れ、主の僕の声に聞き従う者が。闇の中を歩くときも、光のないときも／主の御名に信頼し、その神を支えとする者が」(10節)。主はわたしたちが常に揺れ動き、まっすぐに主の道を歩き通すことのできない欠けを抱えた者であることを知っておられる。それでも、主は、その僕となる者の「耳を開」(5節)けてくださる方。</p>
<p>28日 (日)</p> <p>イザヤ 51章</p>	<p>「わたし、わたしこそ神、あなたたちを慰めるもの」(12節)、「わたしはあなたの口にわたしの言葉を入れ／わたしの手の陰であなただを覆う」(16節)。主の日。「わたしこそ神」と語りぬいてくださっている主のもとに集い、その慰めと言葉をいただこう。礼拝から始まる一週間、この主の御手の陰に依り頼む信仰をいただいて、それぞれの働き場に遣わされていこう。</p>